

巻頭言

大学で身に付けておくべきこと



澤田 直

(九州産業大学・情報科学部准教授)

2016年3月9日～15日にかけて行われた人工知能対人間の囲碁5番勝負の結果は、世界中に衝撃を与えました。Googleが開発した囲碁AIの「アルファ碁(AlphaGo)」が、世界トップ棋士との対局で、4勝1敗という結果を残したのです。また、6月にはアメリカで開発された戦闘機向けの人工知能「ALPHA」が、無人戦闘機を使った戦闘シミュレーションで、元アメリカ空軍のベテランパイロットを打ち負かしたとのニュースが伝えられました。

情報技術の発達に伴い、さまざまな仕事が自動化されてきています。コンピュータは高速な計算、大量のデータ処理、繰り返し処理等が得意ですが、前例のない事態への対応や判断などは苦手とされていました。しかしながらこれらの人工知能の勝利は、これまでコンピュータには苦手とされていた知的な分野ですらコンピュータが人間に匹敵する能力を獲得しつつあることを示しています。

これから大学を卒業して働いていくためには、どのようなスキルを身に付けていったらいいのでしょうか。単純な仕事やルーチンワークは、今後ますますコンピュータやロボットが人間の代わりに行うように社会が変わっていくことが予想されます。雑誌等でも「機械に奪われそうな仕事ランキング」の特集が組まれたりしています。現実にも身近なところでも、ガソリンスタンドのセルフ式給油や、スーパーマーケットのセルフ式レジ等が増えてきています。また、ホテルの接客等にロボットを活用した例もあります。情報技術に関する仕事の形態や取り組み方も今後変わっていくことが予想され、「この技術が身につけていたら一生食べていける」ということが誰にも言えなくなっています。大学で学んでいるプログラミング言語や開発ツールにしても時代と共に変化していきます。

このような時代に仕事をしていくためには、創造的な仕事を行える力と他人と協力しながら仕事を進められる人間力が必要です。

創造的な仕事を行うために大学で身に付けておくべきこととして、どのような技術にも速やかに対応できるようにすることがあると思います。誰かに教えてもらって知識を獲得するのではなく、自ら学習して知識を獲得する習慣と、その知識の応用の仕方を身に付けておくことです。これは分からないことが出てきたときにインターネットで検索してその答をそのまま解答するというだけでは身に付きません。検索してすぐに答が見つかるような問題については、コンピュータの検索能力に人間が勝てる訳がありません。見たこともない問題に対処することができるようになって、初めて仕事として認められるようになります。これは自分の中に知識を吸収し、消化して問題に向き合い、深く考えるという経験を積み重ねていくことでしか身に付かないことです。そのためには「物事の原理と仕組み、その考え方の基礎をしっかり身に付けておくこと」が必要です。

また、現在のシステムは複数人でチームを組んで開発するのが一般的なもので、他人とコミュニケーションを取りながら協力して仕事を進めることが求められます。学生の間にも人の話を正しく聞き取る力、自分の考えを人に伝える力、面倒な事であっても積極的に物事に取り組む姿勢を身に付けておくべきでしょう。このような人間力を身に付け、必要とされる人材であればコンピュータに取って代わられるリスクも減らすことができるでしょう。

平成29年度から情報科学部も機械工学科、電気工学科と再編されて、理工学部として新しい道を歩んでいくこととなります。これまで以上に新しい分野へのチャレンジを行って、社会のニーズに合った教育及び研究を行っていきたいと考えています。